国際コミュニケーション学科・中国語教育への新たなチャレンジ
―より効果的な中国語教育の取組みと新たな中国留学システムの確立―

Global Communication Department・New Challenge for Chinese Study
―More Effctive Methods of Chinese Language Study and a New Establishment of Study Abroad Program in China―

青木　萌

要旨　　本稿は長崎短期大学国際コミュニケーション学科の中国語教育に関する報告である。以下、三つの章に分けて述べる。第一章では、主として、2018 年度に行った中国語の検定試験である HSK について報告する。第二章では、本学科で新たに取り組むことになった中国留学について報告する。そして第三章では、2018 年度における中国語の指導についての改善点を指摘し、今後の指導計画を提示する。
キーワード　中国語教育、HSK、長崎短期大学国際コミュニケーション学科、中国留学、黄山学院

1. HSK について

1.1. 受験状況

2018 年度に国際コミュニケーション学科で筆者の中国語の授業を履修した学生は、1 年生が 22 名、2 年生が 19 名である。その内、36 名（2019 年 3 月 31 日に予定されている試験を含む）の学生が HSK の受験を希望した。当検定は 1 級から 6 級（最高級）まであり、2 級の受験を希望した学生は 5 名、3 級は 22 名、4 級は 7 名、5 級は 2 名である。

一方、2017 年度まで本学科で中国語の授業を担当していた章潔氏の報告（章（2018:109-115））によると、昨年度の 2017 年度に HSK を受験した学生は合計 18 名で、全て 2 年生である。1 級が 1 名、2 級が 14 名（1 名不合格）、3 級が 2 名、4 級が 1 名（不合格）であった。従って、2018 年度は、とても多くの学生が中国語の学習に励み、かつ、受験級が向上しているのが分かる。以下の表 1 を確認されたい。

表 1　2018 年度と 2017 年度の HSK 受験者数

	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級
2017 年度	1 名（2 年生）	14 名（2 年生）	2 名（2 年生）	1 名（2 年生）	0 名
2018 年度	0 名	5 名（1 年生 3 名、2 年生 2 名）	22 名(1 年生 15 名、2 年生 7 名）	7 名（1 年生 5 名、2 年生 2 名）	2 名（1 年生 1 名、2 年生 1 名）

特筆に値することは、2018 年度は、14 名の 1 年生が 3 級の受験を希望し、更に、4 級や 5 級に挑戦する 1 年生も数名出てきたということである。HSK のホームページによると、3 級は大学の第 2 外国語における第 2 年度前期履修程度の学習、つまり、約 1 年半の学習時間が目安とされている。そして、4 級は大学の第 2 外国語における第 2 年度後期履修程度の学習、即ち、約 2 年間の学習時間が目安とされている。この点から見ると、2018 年度の 1 年生は如何に中国語の学習に熱心であるのかが分かる。特に、大学 1 年生で第 2 外国語として HSK4 級に挑戦する学生は全国的に見ても、とても優秀であるといえる。また、5 級を受験する 1 年生は、高等学校で 2 年間中国語を学んでいるが、それであっても、通常、大学 1 年生で第 2 外国語として HSK5 級に挑む学生は、やはり全国的に見ても、とても優秀であると見なしえる。

1.2. 受験結果

さて、以下、実際に受験結果を見ていくことにしよう。以下の表 2 と表 3 を見られたい。なお、2 級は 120

点以上が合格、3級、4級、5級はいずれも180点以上が合格と見なされる（1級と2級は作文の試験が無い）。つまり、6割のスコアを獲得すると合格と判断される。なお、氏名は「＊」で表記し、非公開とする。

表2　2018年度1年生のHSK結果

	氏名	受験級	聞き取り	読解	作文	合計
1	＊＊＊	4級（合格）	78/100	72/100	82/100	232/300
2	＊＊＊	3級（合格）	98/100	100/100	100/100	298/300
3	＊＊＊	3級（合格）	95/100	100/100	100/100	295/300
4	＊＊＊	3級（合格）	100/100	98/100	82/100	280/300
5	＊＊＊	3級（合格）	88/100	98/100	82/100	268/300
6	＊＊＊	3級（合格）	65/100	92/100	100/100	257/300
7	＊＊＊	3級（合格）	70/100	85/100	82/100	237/300
8	＊＊＊	3級（合格）	70/100	72/100	62/100	204/300

表3　2018年度2年生のHSK結果

	氏名	受験級	聞き取り	読解	作文	合計
1	＊＊＊	5級（不合格）	53/100	60/100	66/100	179/300
2	＊＊＊	4級（合格）	53/100	64/100	72/100	189/300
3	＊＊＊	4級（不合格）	40/100	74/100	64/100	178/300
4	＊＊＊	3級（合格）	85/100	99/100	99/100	283/300
5	＊＊＊	3級（合格）	75/100	100/100	94/100	269/300
6	＊＊＊	3級（合格）	69/100	100/100	91/100	260/300
7	＊＊＊	3級（合格）	55/100	98/100	86/100	239/300
8	＊＊＊	3級（合格）	53/100	85/100	74/100	212/300
9	＊＊＊	3級（合格）	58/100	55/100	94/100	207/300
10	＊＊＊	3級（合格）	55/100	68/100	78/100	201/300
11	＊＊＊	2級（合格）	93/100	100/100		193/200
12	＊＊＊	2級（合格）	78/100	78/100		156/200

以上の表2と表3から看取できることは、1年生のスコアが高いということである。表2の2、3、5、6、7、8は、いずれも本学科に入学してから中国語を学び始めた学生である。また、表2の2、3、4、5の学生は高得点で、かつ、聞き取り、読解、作文の三つの能力をバランス良く習得していることが分かる。

そこで今度は平均点に注目してみよう。3級の平均点を比較すると、1年生の合計スコアの平均は、約261点（聞き取り約84点、読解約92点、作文約87点）である。一方、2年生の合計スコアの平均は、約239点（聞き取り約64点、読解約86点、作文約88点）である。2年生は、3級を受験した7名の内、5名がすでに1年生の時から中国語を学んでいる。一方これに対し、1年生で3級を受けた学生7名は、1名が高等学校で1年間1週間に1コマ程度の中国語を学んでいたが（表2の4の学生）、その他の6名はいずれも本学科に入学してから中国語の学習を始めた。そのため、2018年度の1年生の成長が著しいことが理解できる。

また、2年生の中には、2018年度から新たに中国語を始めた学生（即ち1年生とほぼ同じ学習時間となる）もいるが、その中の2名は、いずれも僅か半年で2級を高得点で合格している。注目すべきは、表3の5と11の学生である。この5と11は同じ学生である。まず11に留意されたい。この11のスコアは、聞き取り93/100、読解100/100、合計スコア193/300となっており、極めて高得点である。2級は、大学の第2外国語

における第１年度後期履修程度の学習が目安となっているため、称賛するに値する。そして、この２級を高得点で合格した学生が約半年後に３級を受験した結果が５である。つまり、聞き取り 75/100、読解 100/100、作文 94/100、合計スコア 269/300 の高得点である。この成績は、上の表３から看取できるように、２年生で２番目の順位にあたる。既述の如く、３級の受験は、約１年半の学習時間が目安となっているので、とても優秀であるといえる。なお、２年生の表３の１と３の学生は不合格となったものの、１はあと僅か１点、３はあと僅か２点で合格と見なされるので、一定の評価を与えることができる。

1.3. 学習状況の向上について

以上のように、2018 年度は１年生を中心に中国語の学習状況が飛躍的に向上した。その原因としては、主に以下の４点を重視して指導を行ったためであると考えられる。

① 教員が学生と１対１の発話練習を徹底的に行った。

② 書き取り練習を積極的に行った。

③ 授業時に大量に読解問題を解く方法と、１つの問題を丁寧に解析する方法の２つをバランス良く行った。

④ 筆者が専門とする中国語文法研究の観点に基づいて、作文対策の指導を行った。

以上の４点は、HSK で出題される聞き取り、読解、作文の対策にとても有効的であると言える。以下、上の４点について詳述する。

まず、①の発音練習は、同時に聴く力を養うことになるため、聞き取りの対策になっていると考えられる。

次に、②は、中国語の音声を聴いて、漢字やピンイン（ローマ字式の中国語発音記号）で書き取りを行うが、特に、漢字に頼らず、ピンインで書き取ることが重要である。しかし、場合によっては難易度が高くなるので、教員である筆者が適宜ヒントを与えながら、学生にとって、適切な難易度になるよう、常に調整をするように心がけている。

そして、③は、一見、手荒な指導にも思えるが、週に数回行われる授業で（時には宿題で）何度も行い、更に、この方法を継続することにより、読解力の大幅な向上を図ることができる。つまり、多読と同様の効果が期待できる。しかも、HSK の過去問題を使用するため、学生の学習意欲や集中力も維持しやすいと考えられる。

最後の④については、主に、現代中国語の構成性の原理に基づきながら、HSK の作文の指導を行う。HSK において、作文問題の対策は、最も適切な指導が求められると筆者は考えている。特に、３級、４級、５級の第１部分で出題される並び替え問題の正答率は、試験の合否を左右する重要な部分であるといえる。そこで、筆者は、文法現象が同等だと見なした問題を多くの問題集から収集して整理し、それらを学生に解かせることで、効率的、かつ集中的な指導を行うようにしている。

また、②-④を行う際には、学生に問題や解答をホワイトボードに書かせるよう指示することが多い。これにより、学生の授業時の集中力を維持させるのと同時に、少しでも中国語に触れさせ、長期記憶へと導く効果を期待している。

さらに、HSK を長崎短期大学で行ったことも、学生の中国語の学習状況の向上に大きく貢献したと言える。HSK は平均して毎月全国で指定された試験会場で実施されるが、団体受験会場は受験希望者が１人であっても申請を行うことができ、10 名以上の受験者がいた場合には１割引きとなる。なお、団体受験を行う場合、在学生以外でも受験が可能なため、今後、長崎短期大学と同様に、九州文化学園の系列校である九州文化学園高等学校や長崎国際大学に在籍する学生の受験も期待できる。

なお、上述のことに加え、１年生の学習状況が向上したのは、次に述べる中国留学制度とも密接に関係していると思われる。次章でこれについて詳述する。

2. 中国留学について

本学科は、2018 年度に中国の安徽省黄山市にある黄山学院で３カ月の短期留学を行い、1 年生５名が参加した。黄山学院は中国の国立大学で、二つの広大なキャンパスを有し、２万人近くの学生が在籍している。16 の学科があり、その中には更に 55 の専攻科がある。今回、黄山学院を留学先とした理由は以下の４点が挙げられる。

①黄山市は世界遺産が複数あり、中国で有数の観光地である。また、数多くの銘茶が採れ、自然が豊かな場所としても有名である。そのため、中国の他の都市に比べて、経済的な競争が激しくなく、市民は穏やかで、外国人に対しても親切で、治安が良い。

②黄山学院には日本語学科があり、かつ、現在、日本人留学生が在籍していない状況にあった。日本人学科の中国人学生とペアになって、授業以外の時間に、1対1で中国語と日本語を学びあうことができる。また、日常生活のサポートも受けることができる。

③日本の他大学が目を向けがちな中国の大都市（北京、上海、広東）等よりも物価が安い。

④黄山市は、本学科の中国語教員の実家があり、また、友人の父親が副学長であるため、安心した留学を提供することができる。

以下の写真は、本学科の学生が黄山学院に在籍する日本語学科の学生たちと交流会をした時に撮影したものである。

図1 日本語学科の学生たちとの写真

なお、昨年は諸先生方のご指導の下、本学科は黄山学院と学術協定を締結することができた。今後は交換留学に関する締結も行う予定である。そして、来年度は3カ月の短期留学のみならず、数週間の語学研修、1年間の交換留学、4年生大学の3年次編入等を計画する予定である。特筆に値することは、黄山学院の編入学では、HSK4級を有し、かつ、本学の成績が85点以上の場合、黄山学院の本科生の半年分の学費に相当する金額の奨学金が支給され、しかも、国際コミュニケーション学科からは15名までの学生に対し奨学金の支払いが可能である、ということである。これにより、学生の中国語学習の意欲が大きく向上する期待が持てる。実際に、現時点では、昨年度に3カ月留学をした1年生5名の内、3名が編入学、2名が編入学あるいは交換留学を予定している。また、それ以外に、3名の1年生が編入学を希望し、4名の1年生が交換留学を検討している。

3. 来学期に向けて

以上、2018年度の国際コミュニケーション学科における中国語の学習状況について述べた。なお、改善点としては、

①クォータを終えるごとに、履修者が増え、結果、教員と学生の1対1の発音練習の時間が減った。

②語彙力を高める指導が完全ではなかった。

が挙げられる。①については、来学期からは全ての中国語の授業を完全に2クラスに分けて行うため、改善が可能であると思われる。②については、HSK本部が定める試験要綱に基づき、2年間でHSK5級の受験に対応できる単語数である2500個を学習し、更に、6級に挑戦できる力を身につけることを目標に掲げ、より計画的な指導を行う予定である。それ故、来学期からの2年間の中国語の指導計画は以下のようになる。

表４　２年間の中国語の指導計画

1 年生（4 月－ 6 月）	HSK1 級に合格（目標単語学習数 : 約 300）
1 年生（7 月－ 8 月）（宿題を与える）	HSK2 級に合格（目標単語学習数 : 約 600）
1 年生（9 月－ 11 月）	HSK3 級に合格（目標単語学習数 : 約 900）
1 年生（12 月－ 3 月）（宿題と HSK 対策補講の実施）	HSK3 級に確実に合格（目標単語学習数 : 約 1300）
2 年生（4 月－ 6 月）	HSK4 級に合格（目標単語学習数 : 約 1600）
2 年生（7 月－ 8 月）（宿題を与える）	HSK4 級に確実に合格（目標単語学習数 : 約 1900）
2 年生（9 月－ 11 月）	HSK5 級に合格（目標単語学習数 : 2200）
2 年生（12 月－ 3 月）（宿題と HSK 対策補講の実施）	HSK5 級に合格、HSK6 級に挑戦（目標単語学習数 : 2600）

本学科で中国語を履修しながら HSK5 級に合格した場合、中国語で仕事に対応できる実力が身に付き、また、中国の 4 年制大学の 3 年次編入にもスムーズに対応することができる。

HSK 本部の情報によると、各級で求められる単語数は、1 級が 150 個、2 級が 300 個、3 級が 600 個、4 級が 1200 個、5 級が 2500 個、6 級が 5000 個である。一見、単語数が多くないように思えるが、中国語には、複雑な漢字や、声調の違いによって意味が大きく異なる単語が数多くあるため、効率的で、かつ、質の良い授業を行うのに加え、学生の学習意欲の向上が欠かせない。だが、以上の指導計画を透徹し、更に、上述した留学制度を効果的に利用すれば、2 年間で最高級の HSK6 級の合格も十分に可能である。来年度には更に良い成績を報告できるよう、引き続き学生と共に日々努力していきたいと強く思って已まない。

4. 参照文献

章潔（2018）「長崎短期大学生の HSK 受験結果報告と分析」『長崎短期大学研究紀要（第 30 号）』。
HSK ホームページ（http://www.hskj.jp/（2019 年 2 月 26 日閲覧））
黄山学院ホームページ（http://www.hsu.edu.cn/（2019 年 2 月 26 日閲覧））

長崎短期大学研究倫理委員会承認【19−短倫−08】